

## 1. 企画情報部

### 1 評価委員会の開催

第3期中期運営計画（R3～R7、五カ年計画）及び年度実施計画の取組状況や目標の達成度についての機関評価及び、衛生研究所が行う調査研究事業についての調査研究企画評価を受けるため令和5年6月、評価委員会を開催した。

評価委員会は、保健政策課と衛生研究所が推薦する専門委員7名（地域保健・公衆衛生分野の専門家・有識者5名及び内部委員2名）により構成される。

#### (1) 機関評価

##### ア 評価項目

###### i) 県民に対して提供する業務

調査研究、試験検査、研究成果等の活用促進、広報・情報発信・普及啓発、外部人材育成・教育活動

###### ii) 業務の質的向上、効率化のために実施する方策

全体マネジメント、他機関との連携・調査研究費の獲得、県民ニーズの把握、内部人材育成

##### イ 評価基準

項目別評価については、達成度と難易度を考慮して判断を行う。難易度はH（高）・M（中）・L（低）の3段階、達成度は4段階（AA・A・B・C）の基準を用い、これらを勘案した上で、下表を参考に判断する。

難易度	達成度			
	AA	A	B	C
H	AA	AA	A	C
M	AA	A	B	C
L	A	B	C	C

総合評価については、項目別評価の評点を数値化（AA：4点、A：3点、B：2点、C：1点）し、集計した結果の平均を4段階（AA：3.5点以上、A：2.5点以上3.5点未満、B：1.5点以上2.5点未満、C：1.5点未満）で示すことより、判定される。

##### ウ 令和4年度評価結果

総合評価：AA（3.55）試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取り組みを実施していると評価された。

#### (2) 調査研究企画評価

##### ア 評価対象研究課題

###### (ア) 完了報告

令和4年度に完了した研究課題2題

###### (イ) 中間評価

令和2年度から開始した研究課題1題

## (ウ) 事前評価

令和5年度から実施の研究課題2題及び令和6年度から実施の研究課題1題

## イ 評価項目

## (ア) 完了報告

①調査研究の妥当性 ②目標の達成度 ③成果の意義、活用性 ④総合評価

## (イ) 中間評価

①必要性 ②進捗状況 ③計画の妥当性 ④目標の達成及び活用可能性 ⑤総合評価 ⑥継続実施の適否

## (ウ) 事前評価

①必要性 ②目的の適合性 ③計画内容等の妥当性 ④目標の達成及び活用可能性 ⑤総合評価 ⑥計画実施の適否

## ウ 評価基準

上記①～⑤の評価項目については5段階評価、⑥については3段階評価

## エ 研究課題及び評価結果

## (ア) 完了報告

- ・茨城県における結核菌分子疫学解析に関する研究  
総合評価：5.0
- ・野生動物における人獣共通感染症の網羅的病原体解析に関する試験研究  
総合評価：4.9

## (イ) 中間評価

- ・茨城県内におけるリケッチア保有マダニの浸潤状況の解明  
総合評価：4.9

## (ウ) 事前評価

- ・茨城県におけるSFTSウイルス等モニタリング調査  
総合評価：4.7
- ・茨城県における腸管出血性大腸菌の分子疫学解析に関する研究  
総合評価：4.7
- ・健康危機管理体制強化のための植物性自然毒検査法の構築  
総合評価：4.9

## 2 感染症情報センター

県内の感染症発生状況について、感染症発生動向調査における週報・月報等の情報還元をはじめ、流行が懸念され注意が必要と考えられる感染症についての注意喚起等を衛生研究所ホームページ等で行っている。

県内の医療機関等から報告された二類～五類感染症（全数把握疾患・定点把握疾患）及び新型インフルエンザ等感染症の報告数については表1及び表2のとおりである。

また、「茨城県感染症対策連携協議会感染症発生動向調査部会」において、県内の感染症発生状況のまとめを報告し情報提供を行った。

表1 令和5年次全数把握疾患

分類	疾病名	患者報告数
二類	結核	374
三類	細菌性赤痢	1
	腸管出血性大腸菌感染症	88
	腸チフス	3
四類	E型肝炎	20
	A型肝炎	1
	エムポックス	2
	つつが虫病	5
	デング熱	2
	日本紅斑熱	1
	日本脳炎	2
	レジオネラ症	91
五類	アメーバ赤痢	10
	ウイルス性肝炎（E型及びA型を除く）	4
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	53
	急性脳炎	38
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17
	後天性免疫不全症候群	21
	ジアルジア症	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7
	侵襲性肺炎球菌感染症	35
	水痘（入院例）	8
	梅毒	287
	播種性クリプトコックス症	3
	破傷風	2
	百日咳	8
	麻しん	1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症（限定化報告）*	22,244**

\* 令和5年5月7日まで（5月8日以降は5類定点把握疾患となった）

\*\*令和5年5月7日までに診断された件数。公表資料の情報をもとに集計。

表2 令和5年次定点把握疾患

5類定点把握疾患	疾病名	患者報告数	(定点当たり患者報告数)	
週単位で届出するもの	インフルエンザ	49,288	(410.73)	
	インフルエンザ/COVID-19	40,121##	(334.34) ##	
	小児科	新型コロナウイルス感染症#		
		RSウイルス感染症	1,844	(24.59)
		咽頭結膜熱	3,500	(46.67)
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7,406	(98.75)
		感染性胃腸炎	14,084	(187.79)
		水痘	338	(4.51)
		手足口病	3,801	(50.68)
		伝染性紅斑	102	(1.36)
		突発性発しん	646	(8.61)
		ヘルパンギーナ	2,870	(38.27)
	流行性耳下腺炎	135	(1.80)	
	眼科	急性出血性結膜炎	14	(0.82)
流行性角結膜炎		980	(57.65)	
基幹	細菌性髄膜炎	5	(0.42)	
	無菌性髄膜炎	8	(0.67)	
	マイコプラズマ肺炎	71	(5.92)	
	クラミジア肺炎	0	( - )	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	1	(0.08)	
月単位で届出するもの	基幹	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	332	(27.67)
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	(0.08)
		薬剤耐性緑膿菌感染症	9	(0.75)
	性感染症	性器クラミジア感染症	997	(45.32)
		性器ヘルペスウイルス感染症	340	(15.45)
		尖圭コンジローマ	92	(4.18)
		淋菌感染症	206	(9.36)

#令和5年5月8日より5類定点把握疾患

##令和5年5月8日以降の累計患者報告数、定点当たり報告数

### 3 ホームページの運営

衛生研究所全体の概要や各部の業務、試験検査・調査研究の紹介及び最新情報を提供するためホームページを開設し平成15年2月から運営している。なお、平成27年3月に茨城県ホームページシステム変更に伴いリニューアルした。

[https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/eiken/index\\_4.html](https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/eiken/index_4.html)

ホームページ管理運営委員会を開催し、感染症、食品及び医薬品等に関する公衆衛生情報を8件(表3)掲載した。

表3 令和5年度ホームページ掲載公衆衛生情報

掲載月	タイトル
11月	・有毒植物による食中毒について
11月	・海外ではまだまだ多い！麻しん（はしか）に注意！
12月	・梅毒が増加しています！
12月	・インフルエンザが例年より早く流行しています
1月	・健康食品について
3月	・薬剤耐性菌（AMR）について
3月	・アニサキスによる食中毒に注意しましょう
3月	・生肉に注意！

そのほか、感染症流行情報の「週報」「月報」「病原体検出情報」「インフルエンザ流行情報、学級閉鎖情報」流行感染症に対する県民への注意喚起等の掲載・更新を225回行った。また、県内における流行感染症情報を衛生研究所Xに52回投稿した。

#### 4 薬剤耐性対策に関する普及啓発

茨城県における薬剤耐性（Antimicrobial Resistance：AMR）への対策を講じるため、令和元年度から事業を開始し、県民等への普及啓発を行っている。

##### （1）茨城県薬剤耐性対策推進会議

薬剤耐性に対する取り組み（普及啓発、調査研究等）を具体的かつ効果的に推進するため、令和元年11月に薬剤耐性対策推進会議を設置した。この会議は、感染対策に関する専門的な知識を有する医師、看護師など、7名の委員により構成される。

会議は令和5年7月27日（木）及び令和6年2月16日（金）に衛生研究所にて、事務局から薬剤耐性対策に係る令和5年度の取り組みを報告するとともに、今後の取り組み（特に普及啓発事業）について議論した。

##### （2）普及啓発事業

令和5年度は次の事業を行った。

- ・ホームページの更新、薬剤耐性に関する情報発信（随時更新）
- ・茨城放送のラジオ番組「知っていますか？クスリのお話」での広報（10月、11月、12月）
- ・日本生命社内でのAMR啓発動画「薬剤耐性菌って知っていますか？」放映（9月～）
- ・県内イオンモール3店舗でのAMR啓発動画「薬剤耐性菌って知っていますか？」放映（11月）
- ・啓発動画広報用チラシの設置（県内イオン11店舗、県内道の駅16ヶ所）（11月）
- ・県公式X、衛生研究所Xでの広報（11月）
- ・県庁舎2階デジタルサイネージによる広報（11月）
- ・県庁舎2階県政広報コーナー及び県立図書館ギャラリーでのパネル展示（11月）

## 5 地方衛生研究所全国協議会の連絡調整

協議会の会員機関として、18件の調査等（表4）に協力するとともに、会員機関同士の情報交換を行った。

表4 令和5年度地方衛生研究所全国協議会の調査等一覧

調査名	実施機関等
・厚生労働省健康局健康課地域保健室からの緊急のアンケート調査	厚生労働省
・健康被害危機管理事例（概要情報）の調査について	岡山県環境保健センター
・地方衛生研究所の設備整備に関する調査	厚生労働省
・地方衛生研究所長の職種等及び地方環境研究所との関係等について	岡山県環境文化部環境企画課
・地方衛生研究所の法制化に伴う対応に関する調査	愛媛県立衛生環境研究所
・食品遺伝子検査の需要調査アンケート	国立医薬品食品衛生研究所
・TOC計に関するアンケート調査	山梨県衛生環境研究所
・地方衛生研究所における外部資金等の実態調査	兵庫県立健康科学研究所
・地方衛生研究所のHIV確認検査実施に関するアンケート調査	大阪健康安全基盤研究所
・AFPの病原体検査に関するアンケート	愛媛県立衛生環境研究所
・病原体検出マニュアルに関するアンケート調査について	群馬県衛生環境研究所
・自治体における感染症対策の計画的な体制整備に関する調査研究	滋賀県健康医療福祉部感染症対策課
・BSL実験室に関するアンケート	徳島県立保健製薬環境センター
・地方衛生研究所の調査研究にかかるアンケート調査について	岡山県環境保健センター
・人獣共通感染症（動物由来感染症）対策事業等に関するアンケート	山口県環境保健センター
・技術職員の雇用等に関する実態調査	文部科学省
・地方衛生研究所の在り方に関する調査等一式に係る「各種調査」	厚生労働省
・地方衛生研究所における人材育成・キャリア支援に関する調査研究に係るアンケート調査	さいたま市健康科学研究センター

## 2. 細菌部

### 1 試験検査の概況

令和5年度試験検査実施状況を表1に示した。

#### (1) 感染症発生動向調査事業

##### ア 細菌の分離同定等検査

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」により、三類感染症として届出のあった患者の接触者検査、届出対象者が病原体を保有していないことの確認検査、保健所等から送付された菌株及び三類感染症以外の感染症について、試験検査を実施した。

##### (ア) 当所実施検査

- ・腸管出血性大腸菌（EHEC）検査は、便 786 検体、環境水 2 検体、菌株 7 検体の計 795 検体について実施し、92 検体において EHEC を検出した。血清型の内訳は、0157：81 株、026：2 株、091：3 株、0128：1 株、0152：2 株、0 血清型不明：3 株であった。
- ・チフス菌検査は、便 8 検体について実施し、全て不検出であった。
- ・赤痢菌検査は、便 15 検体について実施し、全て不検出であった。
- ・感染性胃腸炎検査は、1 事例 便 7 検体について、食中毒の可能性も配慮し病原性大腸菌、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸炎ビブリオ、ウェルシュ菌、セレウス菌、カンピロバクター属菌、ビブリオ類縁菌、エルシニア菌、エロモナス属菌、プレジオモナス属菌の計 11 項目を実施し、1 検体において黄色ブドウ球菌を検出した。
- ・小児急性肝炎検査は、便 2 検体について病原性大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌について検査を実施し、全て不検出であった。
- ・レジオネラ属菌検査は、喀痰 7 検体について実施し、4 検体において *Legionella pneumophila* 遺伝子を検出した。また、遺伝子検出した 4 検体中 1 検体では *Legionella pneumophila* SG1 を分離した。
- ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症について、収集した 55 菌株について試験検査を実施し、カルバペネマーゼ遺伝子 IMP-1 3 株を検出した。

##### (イ) 国立感染症研究所依頼検査

- ・*Candida auris* 疑い 2 菌株について菌種同定を依頼し、1 菌株が *Candida auris* と同定されたが薬剤耐性株ではなかった。
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者由来 7 菌株について依頼し、4 菌株が M1UK 株であった。
- ・侵襲性インフルエンザ菌感染症患者由来 1 菌株について莢膜型検査を依頼し、無莢膜型インフルエンザ菌であった。
- ・侵襲性肺炎球菌感染症患者由来 3 菌株について、血清型別検査を依頼し、Type15B：1 株、Type23A：1 株、Type24F：1 株であった。
- ・レプトスピラ症 7 検体、ライム病 3 検体、ブルセラ症 1 検体、野兔病 2 検体、腸管出血性大腸菌 15 検体の臨床検体について、遺伝子検査ないしは血清抗体価検査

を依頼した。レプトスピラ症、ライム病、ブルセラ症、野兔病については全て陰性であった。腸管出血性大腸菌については、集団発生事例の原因究明に寄与した。

(ウ) 病原体定点依頼検査（基幹定点）

- ・細菌性髄膜炎の検査を2施設2検体について実施し、1検体より *Citrobacter freundii* を検出した。

イ 感染症発生動向調査事業に基づく菌株送付

- ・発生届のあった三類感染症であるチフス菌1株、赤痢菌1株及び腸管出血性大腸菌86株について、性状等を確認後に国立感染症研究所へ送付した。腸管出血性大腸菌0抗原血清型の内訳は0157:52株、026:5株、08:2株、091:2株、0103:3株、0111:1株、0115:1株、0128:2株、0146:1株、0152:1株、0159:1株、0168:1株、0血清型不明:14株であった。

ウ 細菌の分子疫学解析検査

感染症の集団発生時や広域事例探知を目的として、感染経路の特定・感染源解明のために分子疫学解析検査を実施した。類似パターンを示した事例については、その情報を依頼保健所及び主管課へ提供した。

- ・結核菌101株についてVNTR法による分子疫学解析検査を実施した。得られた結果はデータベースに加え過去事例との類似パターンの確認をした。
- ・上記結核菌株のうち2株についてBCG株との鑑別を結核研究所に依頼し、BCG株であることを確認した。
- ・腸管出血性大腸菌0157及び026 63株についてMLVA法による分子疫学解析検査を実施し、集団発生事例の原因究明等に寄与した。

エ 細菌感染症検査に係る外部精度管理

次の外部精度管理に参加し、結果はすべて良好であった。

- ・令和5年度 厚生労働科学研究 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業  
「食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究」  
腸管出血性大腸菌0157:3菌株、026:1菌株、0111:1菌株  
(PFGE法、MLVA法実施)
- ・令和5年度 厚生労働科学研究  
「国内の病原体サーベイランスに資する機能的なラボネットワークの強化に関する研究」分担研究「抗酸菌型別分析における精度保証」  
結核菌DNA 5検体 (VNTR法)

(2) 食品衛生関連事業

ア 食中毒検査

食中毒事例(疑い含む)70事例637検体について、原因究明のための細菌検査(寄生虫検査を含む)を実施した。検査対象検体の内訳は、便361検体、ふきとり203検体、食品51検体、虫体8検体、その他14件であった。

その結果、*Campylobacter jejuni* 12株、腸管出血性大腸菌3株、黄色ブドウ球菌15株、セレウス菌4株(下痢型3株、嘔吐型4株)、ウェルシュ菌7株を検出し、アニサキス8検体を *Anisakis simplex sensu stricto* と同定した。

観光果樹園で発生した EHEC 感染症事例の詳細については、第 3 章 調査及び研究報告で報告する。

#### イ 食品衛生法に基づく収去食品検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき、保健所の監視指導に伴い搬入された収去食品等の試験検査を実施した。

##### (ア) 食肉の試験検査

汚染された食肉及びその加工品等による食中毒の発生を防止するため、食肉 108 検体について、カンピロバクター属菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌 (O26、O103、O111、O121、O145、O157) 及び腸内細菌科菌群等の試験検査を実施し、カンピロバクター属菌 7 株、サルモネラ属菌 23 株を検出した。

##### (イ) 輸入食品の試験検査

県内に流通する輸入食品の安全を確保するため輸入食品 110 検体 (食肉製品 13 検体、清涼飲料水 16 検体、冷凍食品 65 検体、容器包装詰加圧加熱殺菌食品 16 検体) について、細菌数、E. coli、大腸菌群、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、クロストリジウム属菌数、緑膿菌、腸球菌、恒温試験及び細菌試験のうち、それぞれの食品に対応する検査項目の試験検査を実施し、全て適正であった。

##### (ウ) 農産物漬物の試験検査

県内に流通する農産物漬物の安全を確保するため県内事業所農産物漬物 22 検体について、大腸菌及び腸炎ビブリオの試験検査を実施し、1 検体で大腸菌が陽性となった。

##### (エ) 夏期一斉取締りに伴う収去食品検査

夏期に多発する食中毒等の食品による事故の防止を図るため、収去食品 (弁当及びそう菜) 86 検体について、細菌数、大腸菌及び黄色ブドウ球菌の試験検査を実施し、細菌数 4 検体、大腸菌 1 検体で基準を超過した。

##### (オ) 年末一斉取締りに伴う収去食品検査

食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が発生する冬期における食中毒の発生防止を図るため、収去食品 93 検体 (弁当及びそう菜 36 検体、洋生菓子 57 検体) について、それぞれの食品に対応する検査項目の試験検査を実施した。その結果、洋生菓子より細菌数 5 検体、大腸菌群 8 検体及び黄色ブドウ球菌 1 検体で基準を超過した。

##### (カ) 認定小規模食鳥処理場衛生状況調査

認定小規模食鳥処理場の衛生状況を把握するため、夏期及び冬期の 2 回、県内延べ 20 施設において採取した拭き取り等 140 検体についてサルモネラ属菌及びカンピロバクター属菌の試験検査を実施し、カンピロバクター属菌を 18 検体から、サルモネラ属菌を 8 検体から検出した。

##### (キ) 行幸啓検査

「育樹祭」への皇族のお成りに際して、関連施設における衛生状況把握を目的に、拭き取り 20 検体 (検査項目: 大腸菌群、大腸菌、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、細菌数)、従業員便 25 検体 (検査項目: 腸管出血性大腸菌 O157、

チフス菌・パラチフス A 菌を含むサルモネラ属菌、赤痢菌) を実施し、全て不検出であった。

(ク) 食品衛生外部精度管理調査

一般財団法人食品薬品安全センターが実施する 2023 年度食品衛生外部精度管理調査に参加した。E. coli、一般細菌数、腸内細菌目菌群、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、大腸菌群について検査を実施し、すべて結果良好であった。

(3) 水道水質調査事業

病原性微生物等実態調査実施要領に基づき、表 2 のとおり原虫(クリプトスポリジウム、ジアルジア)対策が取られていない県内 1 市町村の浄水場 4 施設の原水及び浄水について、クリプトスポリジウム、ジアルジア、大腸菌、嫌気性芽胞菌の検査を実施した。その結果、1 施設より大腸菌を検出し、クリプトスポリジウム、ジアルジア、嫌気性芽胞菌は不検出であった。

(4) 環境衛生に係る試験検査

レジオネラ症の発生届出患者に入浴施設の利用が認められた場合、当該入浴施設の浴槽水等におけるレジオネラ属菌の試験検査を実施した。その結果、14 施設 78 検体(内訳: 浴槽水等 36 検体、拭き取り 42 検体)について実施し、浴槽水等 4 検体からレジオネラ属菌を検出した。

また、令和 5 年 2 月 27 日付け厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生課事務連絡「旅館業における入浴施設のレジオネラの防止対策及びコンプライアンスの遵守の周知徹底について」を受けて、県内旅館業における入浴施設および公衆浴場における保健所の監視指導時に、浴槽水のレジオネラ属菌検査を実施した。その結果、36 施設 68 検体(内訳: 浴槽水等 65 検体、拭き取り 3 検体)について実施し、浴槽水等 8 検体、拭き取り 3 検体からレジオネラ属菌を検出した。

(5) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

医療機器等の安全確保を目的に、令和 5 年度県内流通医薬品等試験検査実施要領に沿って、汎用注射針 1 検体、歯科用注射針 1 検体について外観試験及び無菌検査を実施し、全て適合であった。

表 1 令和 5 年度 試験検査実施状況

項目	検体数	検出病原体等 ( ) は検出数
腸管出血性大腸菌	795	0157(81)、026(2)、091(3)、0128(1)、0152(2)、OUT(3)
感染症		
発生動向調		
査事業関連		
チフス菌	8	
赤痢菌	15	
感染性胃腸炎(11 項目)	7	黄色ブドウ球菌(1)
小児急性肝炎(4 項目)	2	

	レジオネラ属菌	7	<i>Legionella pneumophila</i> 遺伝子 (4) <i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目 細菌	55	IMP-1 (3)
	カンジダ アウリス	2	<i>Candida auris</i> (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌	7	M1UK (4)
	侵襲性インフルエンザ菌	1	無莢膜型インフルエンザ菌(1)
	侵襲性肺炎球菌	3	血清型 : Type15B(1)、Type23A(1)、Type24F(1)
	レプトスピラ症	7	
	ライム病	3	
	ブルセラ症	1	
	野兔病	2	
	腸管出血性大腸菌 (血清学的検査)	15	0157 凝集抗体陽性 (12)
	細菌性髄膜炎 (病原体基幹定点)	2	<i>Citrobacter freundii</i> (1)
	チフス菌 (菌株確認検査)	1	フェージ型 E9 (1)
	赤痢菌 (菌株確認検査)	1	<i>Shigella sonnei</i> D 群 (1)
	腸管出血性大腸菌 (菌株確認検査)	86	0157(52)、026(5)、08(2)、091(2)、0103(3)、0111(1)、 0115(1)、0128(2)、0146(1)、0152(1)、0159(1)、0168(1)、 OUT(14)
	結核菌 (BCG 株との鑑別)	2	
分子疫学解 析検査	結核菌 (VNTR)	101	
	腸管出血性大腸菌 (MLVA)	63	
	食中毒 (疑い含む) 検査	637	カンピロバクター属菌 (12) 腸管出血性大腸菌 (3) 黄色ブドウ球菌 (15) セレウス菌 (4) ウェルシュ菌 (7) <i>Anisakis simplex sensu stricto</i> (8)
食品衛生事 業関連	食肉の試験検査	108	カンピロバクター属菌 (7) サルモネラ属菌 (23) 内訳 <i>Salmonella Schwarzengrund</i> (20)、 <i>Salmonella Infantis</i> (2)、 <i>Salmonella Manhattan</i> (1)
	輸入食品の試験検査	110	
	農産物漬物の試験検査	22	大腸菌 (1)

夏期一斉取締りに伴う 収去食品検査	86	細菌数 (4)、大腸菌 (1)
年末一斉取締りに伴う 収去食品検査	93	細菌数 (5)、大腸菌群 (8)、 黄色ブドウ球菌 (1)
認定小規模食鳥処理場 衛生状況調査	140	カンピロバクター属菌 (18) サルモネラ属菌 (8)
行幸啓関連検査	45	
食品衛生外部精度管理調査	6	
水道水質調査 (原水・浄水)	8	
その他 環境衛生関連 (浴槽水等)	146	レジオネラ属菌 (15)
医療機器一斉監視指導に係る 試験検査	2	
合計	2,589	

表2 病原性微生物等実態調査一覧

検査項目	件数		計
	水道原水	浄水	
気温	4	4	8
水温	4	4	8
大腸菌	4		4
嫌気性芽胞菌	4		4
クリプトスポリジウム	4	4	8
ジアルジア	4	4	8
合計	24	16	40
調査地点	西金浄水場	大子町	
	頃藤浄水場	大子町	
	芦野倉浄水場	大子町	
	上岡浄水場	大子町	

## 2 調査研究

- (1) 茨城県における薬剤耐性菌の分子疫学解析に関する研究 (実施期間: 令和4年度～令和8年度)

本県で検出されるカルバペネム耐性菌の詳細な実態把握を目的に、感染症発生届出の対象となるカルバペネム耐性腸内細菌目細菌 (CRE) 菌株及び協力医療機関から収集する届出対象とならない無症状保菌者から検出された菌株について、カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌 (CPE) の検出ならびにカルバペネマーゼ遺伝子 (CP) 検査等に取り組んでいる。

令和5年度は届出対象株55株、届出非対象株50株を収集し、CPE5株を検出した。結果は保健所及び医療機関に還元した。

研究の成果については、日本公衆衛生学会、地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会で公表した。

(2) 茨城県における腸管出血性大腸菌（EHEC）の分子疫学解析に関する研究（実施期間：令和5年度～令和7年度）

本県で検出されたEHECの特徴を把握することを目的に、県内で検出されたEHECの疫学情報と菌株を収集・保存し、MLVA解析と解析情報の蓄積に取り組んでいる。

令和5年度は、集団感染事例（疑いを含む）由来株を中心にMLVA解析データ、全ゲノム解析データと疫学情報を合わせて判断することで、集団発生時の感染経路の解明や広域感染症の探知を行い、得られた解析データを本庁・保健所等関係機関に情報還元した。

### 3. ウイルス部

#### 1 試験検査の概況

##### (1) 感染症発生動向調査事業等

令和5年度感染症発生動向調査事業に係る検査件数を表1に示した。

##### ア インフルエンザ

病原体定点医療機関から提出のあった175検体、集団発生等49検体の合計224検体について遺伝子検査及び分離培養・同定検査を実施した。その結果、AH1pdm09 52件、AH3 111件、B（ビクトリア系統） 26件が検出された。

##### イ 感染性胃腸炎

病原体定点医療機関から提出のあった2検体及び、下痢症ウイルスによる集団感染等が疑われた事例延べ371検体、合計373検体について、下痢症ウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ノロウイルス199件（GII 199件）、サポウイルス35件、アストロウイルス4件が検出された。

##### ウ ジカ熱・チクングニア熱・デング熱

蚊媒介感染症疑い4名の検査を実施したところ、デングウイルス3型1件、麻疹ウイルスD8型1件が検出された。

##### エ つつが虫病・日本紅斑熱

つつが虫病疑い17名の遺伝子検査を行ったところ、*Orientia tsutsugamushi* Karp型1件、*Kuroki*型3件、*Kawasaki*型1件、*Rickettsia japonica* 1件が検出された。ダニ媒介感染症疑い8名について*Orientia tsutsugamushi* Karp型1件が検出された。

##### オ 麻しん・風しん

麻しん及び風しん疑い患者54名の遺伝子検査を行ったところ、水痘・帯状疱疹ウイルス3件、デングウイルス3型1件、麻疹ウイルスA型（ワクチン由来株）1件が検出された。

##### カ 急性脳炎

急性脳炎・脳症（疑い例を含む）の患者52名の血清、髄液、咽頭ぬぐい液、糞便等を用いて遺伝子検査を実施した。その結果、EBウイルス2件、サイトメガロウイルス1件、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）2件、RSウイルスB型2件、ヒトヘルペスウイルス6型13件、ヒトヘルペスウイルス7型5件、アデノウイルス2型2件、アデノウイルス3型1件、アデノウイルス（型別不能）4件、インフルエンザAH1pdm09 4件、インフルエンザAH3 6件、ヒトボカウイルス1件、ヒトライノウイルス4件、ノロウイルスGII 1件、エンテロウイルスA71 1件、エンテロウイルス属（型別不能）1件、ヒトコロナウイルスOC43 4件、パラインフルエンザウイルス2型1件、パラインフルエンザウイルス3型3件が検出された。

##### キ E型肝炎・A型肝炎

E型肝炎患者17名、A型肝炎患者5名の遺伝子検査を行ったところ、E型肝炎ウイルスは3件、A型肝炎ウイルスは1件検出された。

##### ク 無菌性髄膜炎・手足口病・突発性発疹・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱・流行性角結膜炎・RSウイルス感染症

無菌性髄膜炎39名、手足口病3名、突発性発疹7名、ヘルパンギーナ4名、咽頭結膜熱7名、流行性角結膜炎12名、急性出血性結膜炎2名、RSウイルス感染症33名、感染性胃腸炎2名、水痘4名、流行性耳下腺炎1名の検体について遺伝子検査、分離培養・同定検査を実施した。その結果、無菌性髄膜炎からコクサッキーウイルスA9型1件、コクサッキーウイルスB5型2件、ヒトパレコウイルス3型5件、ヒトコロナウイルスOC43 1件、ライノウイルス1件、ヒトヘルペスウイルス7型1件、水痘・帯状疱疹ウイルス1件が検出された。手足口病では、エンテロウイルスA71型2件が検出された。突発性発疹ではヒトヘルペスウイルス6型が6件検出された。ヘルパンギーナではコクサッキーウイルスA2型2件、コクサッキーウイルスA4型1件、エンテロウイルスA71型1件が検出された。咽頭結膜熱ではアデノウイルス3型が6件検出された。流行性角結膜炎ではアデノウイルス2型1件、アデノウイルス3型2件、アデノウイルス8型1件、アデノウイルス37型1件、アデノウイルス54型1件、アデノウイルス56型3件、アデノウイルス64型2件が検出された。急性出血性結膜炎ではアデノウイルス64型が1件検出された。RSウイルス感染症では、RSウイルスA型8件、RSウイルスB型22件、RSウイルスA型B型混合感染1件、ヒトメタニューモウイルス1件が検出された。水痘では水痘・帯状疱疹ウイルス3件が検出された。

#### ケ 呼吸器感染症

新型コロナウイルス感染者2,403名の全ゲノム検査を実施し、県内で流行している変異株の動向を調査した。呼吸器感染症が疑われる集団発生事例の施設28検体の検体の提出があり、原因追究に貢献した(表2)。

表1 令和5年度 衛生研究所のウイルス検出状況

#### 1 感染症発生動向調査事業に基づくもの

感染症の 類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	病原体検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
E型肝炎		17	E型肝炎ウイルス3型	1	
			E型肝炎ウイルス(型別不能)	2	
A型肝炎		5	A型肝炎ウイルス(型別不能)	1	
重症熱性血小板減少症 候群(SFTS)		3	—	—	
蚊媒介感染症 (ジカ熱・チクングニ ア熱・デング熱)		4	デングウイルス3型	1	
			麻疹ウイルスD8型	1	
つつが虫病		17	<i>Orientia tsutsugamushi</i> Karp型	1	
			<i>Orientia tsutsugamushi</i> Kuroki型	3	
			<i>Orientia tsutsugamushi</i> Kawasaki型	1	
			<i>Rickettsia japonica</i>	1	
エムボックス		4	エムボックスウイルス	1	

			水痘・帯状疱疹ウイルス	1	
	ダニ媒介感染症 (リケッチア・SFTS等)	8	<i>Orientia tsutsugamushi</i> Karp型	1	
	日本脳炎	3	—	—	
5 類感染 症 (全数届出 疾患)	急性脳炎・脳症	52	EBウイルス	2	
			サイトメガロウイルス	1	
			新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	2	
			RSウイルスB型	2	
			ヒトヘルペスウイルス6型	13	
			ヒトヘルペスウイルス7型	5	
			アデノウイルス2型	2	
			アデノウイルス3型	1	
			アデノウイルス(型別不能)	4	
			インフルエンザAH1pdm09	4	
			インフルエンザAH3	6	
			ヒトボカウイルス	1	
			ヒトライノウイルス	4	
			ノロウイルスGⅡ	1	
			エンテロウイルスA71	1	
			エンテロウイルス属(型別不能)	1	
			ヒトコロナウイルスOC43	4	
			パラインフルエンザウイルス2型	1	
			パラインフルエンザウイルス3型	3	
				風しん(疑いを含む)	3
	麻しん (疑いを含む)	51	水痘・帯状疱疹ウイルス	3	
			デングウイルス3型	1	
			麻疹ウイルスA型(ワクチン由来株)	1	
新型イン フルエン ザ等感染 症(全数届 出疾患)	COVID-19 (疑いを含む)	2,403	新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	2,403	8
5 類感染 症(定点把 握疾患)	RSウイルス感染症		RSウイルスA型	8	
			RSウイルスB型	22	
			RSウイルスA型、B型混合感染	1	
			ヒトメタニューモウイルス	1	
	感染性胃腸炎	2			
	手足口病	3	エンテロウイルスA71型	2	

	突発性発しん	7	ヒトヘルペスウイルス6型	6	
	水痘	4	水痘・帯状疱疹ウイルス	3	
	流行性耳下腺炎	1			
	ヘルパンギーナ	4	コクサッキーウイルスA2型	2	
			コクサッキーウイルスA4型	1	
			エンテロウイルスA71型	1	
	咽頭結膜熱	7	アデノウイルス3型	6	
	急性出血性結膜炎	2	アデノウイルス64型	1	
	流行性角結膜炎	12	アデノウイルス2型	1	
			アデノウイルス3型	2	
			アデノウイルス8型	1	
			アデノウイルス37型	1	
			アデノウイルス54型	1	
			アデノウイルス56型	3	
			アデノウイルス64型	2	
	無菌性髄膜炎	39	コクサッキーウイルスA9型	1	
			コクサッキーウイルスB5型	2	
			ヒトパレコウイルス3型	5	
			ヒトコロナウイルスOC43	1	
			ライノウイルス	1	
			ヒトヘルペスウイルス7型	1	
			水痘・帯状疱疹ウイルス	1	
	インフルエンザ	175	インフルエンザAH1pdm09	42	26
			インフルエンザAH3	89	72
			インフルエンザB(Victoria系統)	26	15
その他	その他 (呼吸器感染症等)	1	単純ヘルペスウイルス1型	1	
	インフルエンザ	3	インフルエンザAH1pdm09	1	1
			インフルエンザAH3	1	1
	ダニ媒介感染症	1	<i>Orientia tsutsugamushi</i> Karp型	1	
	小児の原因不明の 急性肝炎	2	ヒトヘルペスウイルス6型	1	
集団感染 事例	感染性胃腸炎	371	ノロウイルスGⅡ	199	
			サポウイルス	35	
			アストロウイルス	4	
	呼吸器感染症	28	ライノウイルス	4	
			ヒトコロナウイルスOC43	21	
			RSウイルス	1	

インフルエンザ	46	インフルエンザAH1pdm09	9	5
		インフルエンザAH3	21	18
合計	3,311 (人)		3,165	146

表2 令和5年度 呼吸器感染症集団発生事例病原体検出状況

検体採取日	保健所名	施設種類	検出病原体名
5月19日	中央	老人福祉施設	ライノウイルス、ヒトコロナウイルス0C43
8月2日	水戸市	社会福祉施設	ヒトコロナウイルス0C43
3月5日	潮来	老人福祉施設	ヒトコロナウイルス0C43

## 食品衛生対策に関する試験検査

## ア 有症者及び従業員等の検査

食中毒（疑い例、有症苦情等を含む）事例346検体について、下痢症ウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ノロウイルス131件（GI 4件、GII 127件）、サポウイルス1件が検出された。

## イ 食品検査・ふき取り検査

食中毒の原因食品として疑われた食品20検体及びふき取り59体についてノロウイルスの遺伝子検査を実施したところ、すべて陰性であった。

## ウ 二枚貝のノロウイルス検査

県内で水揚げされる二枚貝50個についてノロウイルスの遺伝子検査を実施したところ、すべて陰性であった。

## (3) 外部精度管理

厚生労働省が実施する感染症病原体外部精度管理事業に参加し、「新型コロナウイルスの次世代シーケンシング（NGS）による遺伝子の解読解析」、「麻しん・風しんウイルスの核酸検出検査」を実施したところ、結果は適合であった。

## 2 調査研究

## (1) 感染症流行予測調査

## ア 日本脳炎感染源調査

ブタが日本脳炎ウイルスの増幅動物になっていることから、ブタ血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を測定することで、その侵淫度を調査し、日本脳炎の流行を把握するために実施した。

令和5年7月から9月にかけて、㈱茨城県中央食肉公社に集荷された生後6カ月の県内産のブタから8回、1回あたり10頭を目安に採血した。採血した合計80検体について、血清中の日本脳炎ウイルスに対する赤血球凝集抑制試験（HI）で抗体価を測定した。

その結果は表2のとおりである。

表2 令和5年度 と畜場搬入豚の日本脳炎ウイルスに対する抗体保有状況

検体採取日	検査頭数	H I 抗体 価							HI 抗体 陽性 頭数	HI 抗体 陽性 %	2 ME 感受性※		養豚場所
		<10	10	20	40	80	160	320			≥640	検査数	
7月18日	10	10							0	0			茨城町
7月31日	10	10							0	0	1	0	小美玉市
8月7日	10	7	1	1		1			3	30	2	2	結城市
8月21日	10	6	1		2	1			4	40	3	3	常陸大宮市
8月28日	10	1		1		2	5	1	9	90	9	6	小美玉市
9月4日	10	5		2	3				5	50	5	2	鉾田市
9月11日	10	6	1	2	1				4	40	3	2	鉾田市
9月25日	10	0		1	2	1	5	1	10	100	10	0	茨城町
計	80	45	1	2	7	8	12	2	35	43.8	33	15	45

※ 2-ME 感受性抗体は、HI 抗体価1：40以上であった検体について検査した。

2-ME 処理を行った血清の HI 抗体価が未処理の血清（対照）と比較して、8倍（3管）以上低かった場合を陽性（+）、4倍（2管）低かった場合を偽陽性（±）、不変または2倍（1管）低かった場合を陰性（-）と判定した。

なお、対照のHI抗体価は1：40で、2-ME処理を行った血清が1：10未満であった場合は陽性と判定した。

## イ インフルエンザ感受性調査

ヒトの免疫状況を把握し、次シーズンの流行予測に役立てるために、インフルエンザウイルスに対する血清中の抗体を測定した。

令和5年7月から10月に各年齢群ごとに採血した198名の血清について、赤血球凝集抑制試験（HI法）を実施した。

使用したHA抗原は、次の4種である。

- ・A/ビクトリア/4897/2022（H1N1）
- ・A/ダーウィン/9/2021（H3N2）
- ・B/プーケット/3073/2013（山形系統）
- ・B/オーストラリア/1359417/2021（ビクトリア系統）

各抗原に対する各年齢区分の抗体保有者数等の結果を表5に示した。なお、感染防御の目安とされるHI抗体価1：40以上を抗体保有者として、抗体保有率を算出した。

表4 年齢区分別インフルエンザ抗体保有状況

年齢区分 (歳)	人数 (人)	A/ビクトリア /4897/2022 (H1N1)		A/ダーウィン /9/2021 (H3N2)		B/プーケット /3073/2013 (山形系統)		B/オーストラリア /1359417/2021 (ビクトリア系 統)	
		抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)	抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)	抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)	抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)
0-4	29	0	0.0	24	82.8	6	20.7	7	24.1
5-9	13	3	23.1	12	92.3	6	46.2	3	23.1
10-14	14	0	0.0	13	92.9	8	57.1	6	42.9
15-19	9	3	33.3	9	100	7	77.8	4	44.4
20-29	27	6	22.2	27	100	24	88.9	10	37.0
30-39	33	6	18.2	33	100	31	93.9	9	27.3
40-49	22	0	0.0	22	100	17	77.3	12	54.5
50-59	25	2	8.0	25	100	21	84.0	21	84.0
60-	26	2	7.7	26	100	20	76.9	15	57.7
合計 (全体の 抗体保有 率)	198	22	11.1	191	96.5	140	70.7	87	43.9

## ウ 麻しん風しん感受性調査

今後の流行を予測することを目的として、麻しんウイルス及び風しんウイルスに対するヒト血清中の抗体保有状況及び麻しん及び風しんワクチン接種効果を調査した。

令和5年7月から10月にかけて各年齢群に採取された血清198検体について、「EIA「生研」(デンカ)を用い麻しんEIA抗体価を測定し、赤血球凝集抑制試験(HI法)で風しん抗体価を測定した。

麻しんEIA抗体価の結果を表5に、風しんHI抗体価の結果を表6に示した。

表5 年齢区分別麻しんEIA抗体保有状況

年齢区分 (歳)	EIA抗体価(人)								総計(人)
	<2	2.0-3.9	4.0-5.9	6.0-7.9	8.0-9.9	10.0-11.9	12.0-15.9	≥16	
0-1	7	3						3	13
2-3	1						1	12	14
4-9		2		1	1		3	8	15
10-14	1	3		2	2		4	2	14
15-19		1	1	2	1		2	2	9
20-24		1		1	4	2		4	12
25-29		2		1	1	2	2	7	15
30-39		1		3	2	9	3	15	33
40-49				1	3	4	1	13	22
50-59		1		1		2	3	18	25
60-					2		2	22	26
合計	9	14	1	12	16	19	21	106	198

表6 年齢区分別風しんHI抗体保有状況

年齢区分 (歳)	HI抗体価(人)									総計(人)
	<1:8	1:8	1:16	1:32	1:64	1:128	1:256	1:512	≥1:1024	
0-1	8	1	1		1	2				13
2-3	1		1	3	4	5				14
4-9		2	6	5	1	1				15
10-14	4	1	5	2	2					14
15-19		1	4	3	1					9
20-24	1	1	4	4	2					12
25-29		3	2	5	4		1			15
30-39	2	1	5	12	9	3	1			33
40-49		1	1	5	5	8		2		22
50-59	1			4	7	6	5	2		25
60-	3		2	4	5	5	7			26
合計	20	11	31	47	41	30	14	4		198

## エ 新型コロナウイルス感受性調査

新型コロナウイルス（JPN/TY/WK-521 株）に対するヒト血清中の抗体保有状況を調査し、新型コロナウイルスワクチンの接種効果を調査することを目的として実施した。

令和5年7月から9月にかけて採取された血清198検体について、国立感染症研究所より分与された VeroE6/TMPRSS2 細胞、標準血清及び標準株を用いて中和抗体価を測定した。

各年齢群ごとの中和抗体価の結果を表7に示した。

表7 年齢群別新型コロナウイルス中和抗体保有状況

年齢区分 (歳)	中和抗体価(人)							総計 (人)
	<1:5	1:5	1:10	1:20	1:40	1:80	≥1:160	
0-4	22		4	1		1	1	29
5-9	4	4	2				3	13
10-14	1	1	2	1	2	3	4	14
15-19	1		2	1			5	9
20-24	1			1	1	2	7	12
25-29						5	10	15
30-34	2	1	2	3	3	1	7	19
35-39		1		2	2	3	6	14
40-44		1		2		4	6	13
45-49	1				2	1	5	9
50-54		1		3	1	3	4	12
55-59					2	4	7	13
60-				3	7	3	13	26
合計	32	9	12	17	20	30	78	198

## 4. 理化学部

### 1 食品試験検査の概況

令和5年度茨城県食品衛生監視指導計画に基づき実施した食品試験検査実施状況を表1に示した。

#### (1) 遺伝子組換え食品試験検査

令和5年度遺伝子組換え食品の試験検査実施要領に沿って、大豆9検体について遺伝子組換え体（ラウンドアップレディー大豆）の含有検査を実施した。結果は、全て検出下限値（0.3%）未満であった。

#### (2) 県外産農産物残留農薬試験検査

令和5年度県外産農産物の試験検査実施要領に沿って、県外産の農産物18検体（にんじん5検体、ばれいしょ4検体、キャベツ2検体、だいこん2検体、きゅうり2検体、はくさい、ピーマン（パプリカ）、ほうれんそう各1検体）について農薬97～205項目の検査を実施した。

結果は、以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが、全て基準値以下であった。

- ・キャベツ1検体からシハロトリン、テブコナゾール、トルクロホスメチル、他1検体からチアメトキサムが検出された。
- ・はくさい1検体からアセタミプリド、トルフェンピラドが検出された。
- ・パプリカ1検体からプロシミドンが検出された。
- ・きゅうり1検体からアセタミプリド、クロルフェナピルが検出された。
- ・ほうれんそう1検体からフルフェノクスロン、イミダクロプリドが検出された。

#### [測定項目]

アザコナゾール、イソプロチオラン、ウニコナゾールP、エチオン、クレソキシムメチル、クロルタールジメチル、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンビンホス、シアナジン、シラフルオフエン、ピリメタニル、フェントエート、プロシミドン、ホスチアゼート等

#### (3) 輸入野菜残留農薬試験検査

県内に流通する輸入野菜の安全性を確保するため、令和5年度輸入野菜の試験検査実施要領に沿って、輸入野菜を2回に分けて合計45検体について農薬97～205項目の検査を実施した。結果は以下のとおり農薬成分が検出され、うちアスパラガス1検体から食品衛生法の基準を超過する農薬が検出された。他の44検体は全て基準値以下であった。

#### 【第1回の結果】

23検体実施（さといも4検体、かぼちゃ3検体、たけのこ2検体、にんじん2検体、ピーマン（パプリカ）2検体、ブロッコリー2検体、アスパラガス、えだまめ、オクラ、カリフラワー、だいこん、ばれいしょ、ほうれんそう、未成熟いんげん各1検体）

- ・ほうれんそう1検体からアセタミプリド、イミダクロプリドが検出された。

## 【第2回の結果】

22 検体実施(ピーマン (パプリカ) 5 検体、アスパラガス 3 検体、たけのこ 3 検体、ほうれんそう 3 検体、オクラ 2 検体、かぼちゃ 2 検体、えだまめ、さといも、ブロッコリー、未成熟いんげん各 1 検体)

- ・パプリカ 1 検体からクロルフェナピル、フルフェノクスロンが検出された。
- ・ほうれんそう 1 検体からアセタミプリド、他 1 検体からイミダクロプリドが検出された。
- ・オクラ 1 検体からクロルフェナピル、アセタミプリド、他 1 検体からクロルフェナピルが検出された。
- ・かぼちゃ 1 検体からイミダクロプリドが検出された。
- ・アスパラガス 1 検体からイソプロカルブ、プロフェノホス、フェンプロパトリン、クロチアニジン、イミダクロプリドが検出された。うち 3 農薬 (イソプロカルブ、プロフェノホス、フェンプロパトリン) が基準値超過となった。

## 【測定項目】

アザコナゾール、イソキサチオン、イマザリル、ウニコナゾールP、エチオン、クレソキシムメチル、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンビンホス、シアナジン、ピリメタニル、フェントエート、プロシミドン、ホスチアゼート、マラチオン等

## (4) 漬物の添加物試験検査

県内に流通する農産物漬物の安全性を確保するため、令和 5 年度農産物漬物の試験検査実施要領に沿って、漬物 23 検体について食品添加物 (ソルビン酸) の検査を実施した。結果は全て基準値以下であった。

## (5) 輸入食品試験検査

県内に流通する輸入食品の安全を確保するため、令和 5 年度輸入食品の試験検査実施要領に沿って、輸入食品の試験を実施した。

## ア) 柑橘類の残留農薬

柑橘類 27 検体 (グレープフルーツ 9 検体、オレンジ 9 検体、レモン 9 検体) について農薬 35~68 項目の検査を実施した結果、以下のとおり農薬成分が検出されたが、全て基準値以下であった。

- ・レモン 6 検体からアゾキシストロビンが検出された。

## [測定項目]

アゾキシストロビン、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、トルクロホスメチル、パラチオンメチル、ピラクロホス、フェニトロチオン、プロチオホス、ピリミホスメチル、クロルフェンビンホス等

## イ) 菓子類の食品添加物

輸入食品 (菓子類) 36 検体について、TBHQ (※) の検査を行った。結果は全て不検出であった。

※TBHQ：tert-ブチルヒドロキノン（指定外酸化防止剤）

ウ) 乾燥果実・乾燥かんぴょう、煮豆・甘納豆、ワインの食品添加物

輸入食品36検体（乾燥果実・かんぴょう12検体、煮豆・甘納豆6検体、ワイン18検体）について残存する二酸化硫黄（亜硫酸塩：保存料、酸化防止剤）の検査を行った。結果は全て基準値以下であった。

エ) 農産物漬物原材料（漬物含む。）の食品添加物

輸入農産物漬物材料（漬物含む。）27検体についてソルビン酸の検査を行った。結果は全て使用基準以下であった。

オ) ソルビン酸の使用基準の定めのある食品

ソルビン酸の使用基準の定めがある食品18検体（ワイン10検体、あん類4検体、漬物3検体、ケチャップ1検体）について検査を行った。結果は全て使用基準以下であった。

(6) 加工食品の放射性物質試験検査

令和5年度加工食品の放射性物質試験検査実施要領に沿って、県内事業者が製造した加工食品（水産加工品）27検体について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した。結果は3検体からセシウム137が検出されたが全て基準値以下であった。

(7) イノシシ肉の放射性物質試験検査

イノシシ肉の放射性物質検査実施要領に沿って、県の「出荷・検査方針」に基づき捕獲・処理されたイノシシの肉1検体について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の確定検査を実施した。結果は基準値以下であった。

(8) 食中毒・苦情・違反食品等の行政検査

保健所等に有症苦情や苦情の届け出のあった食品6検体について、以下のとおり原因究明のための検査を実施した。

- ・魚介加工品1検体について毒劇物5項目（ヒ素、シアン化物イオン、硝酸イオン、亜硝酸イオン、農薬（コリンエステラーゼ阻害剤））の検査を実施したところ、全て不検出であった。
- ・食中毒疑い食品（スイセン）5検体についてリコリンの検査を実施したところ、3検体からリコリンを検出した。

表1 令和5年度食品検査項目及び件数

項目	検体数	項目数	件数
(1) 遺伝子組換え食品試験検査	9	9	9
(2) 県外産農産物残留農薬試験検査	18	97~205	2,773
(3) 輸入野菜残留農薬試験検査	45	97~205	7,837
(4) 漬物の添加物試験検査	23	1	23
(5) 輸入食品試験検査			
ア 柑橘類の残留農薬	27	35~68	1,467
イ 菓子類の食品添加物	36	1	36
ウ 乾燥果実・煮豆、ワイン等の食品添加物	36	1	36
エ 農産物漬物原材料(漬物含む)の食品添加物	27	1	27
オ ソルビン酸の使用基準の定めのある食品 (ワイン・農産物漬物・あん類等)	18	1	18
(6) 加工食品の放射性物質試験検査	27	2	54
(7) イノシシ肉の放射性物質試験検査	1	2	2
(8) 食中毒・苦情食品・違反食品等の行政検査	6	1~5	10
合計	273		12,292

## (9) 外部精度管理

- ・一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所が実施する令和5年度食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物検査(果実ペースト中のソルビン酸の定量)、残留農薬検査(ほうれんそうペースト中のクロルピリホス及びダイアジノンの定量)を実施した。結果は、概ね良好であった。
- ・令和5年度地域保健総合推進事業関東甲信静ブロック精度管理事業(模擬訓練)に参加した。ダイエットを標榜したいわゆる健康食品(カプセル)に係る有症苦情事例が発生したと想定し、事務局から配布された模擬試料に含まれる原因物質について、患者の症状、機器分析により推定し報告した(フェノールフタレイン)。結果は適合であった。

## 2 医薬品等試験検査の概況

医薬品公的認定試験検査機関として、医薬品等の試験検査を行っている。

令和5年度医薬品等試験検査実施状況を表2に示した。

## (1) 県内流通医薬品等試験検査

令和5年度県内流通医薬品試験検査実施要領に沿って、以下の医薬品43検体及び水戸市から委託を受けた医薬品1検体の溶出試験、定量試験を実施した。結果は、薬局製剤1検体が不適合であった。

日本薬局方医薬品

フェキソフェナジン塩酸塩錠	21検体(定量試験)
サルボグレラート塩酸塩錠	10検体(溶出試験)
シロドシン口腔内崩壊錠	10検体(溶出試験)

## 薬局製剤

エテンザミド含有製剤

3 検体（定量試験）

## (2) 医薬品・医療機器等一斉監視指導に係る試験検査

令和5年度茨城県医薬品・医療機器等一斉監視指導実施要領に沿って、後発医薬品及び医療機器の検査を実施した。

## ア 後発医薬品

後発医薬品6検体（オキサトミド錠及びオキサトミドドライシロップ）について溶出試験を実施した。結果は全て適合であった。

## イ 医療機器

歯科用注射針1検体及び皮下注射用針1検体について外観試験を実施した。結果は適合であった。

## (3) 家庭用品試買試験検査

令和5年度家庭用品試買試験検査実施要領に沿って、以下の家庭用品150検体について検査を実施した。

- ・家庭用エアゾル製品9検体について、メタノール、テトラクロロエチレン及びトリクロロエチレンの試験を実施した。結果は、全て基準値以下であった。
- ・繊維製品、つけまつげ用接着剤等132検体について、ホルムアルデヒドの試験を実施した。結果は全て基準値以下であった。
- ・繊維製品9検体についてアゾ化合物24項目の試験を実施した。結果は全て基準値以下であった。

## [アゾ化合物測定項目]

4-アミノジフェニル、オルト-アニシジン、オルト-トルイジン、4-クロロ-2-メチルアニリン、2,4-ジアミノアニソール、4,4'-ジアミノジフェニルエーテル、4,4'-ジアミノジフェニルスルフィド等

## (4) 無承認無許可医薬品試験検査

令和5年度無承認無許可医薬品対策事業実施要領に沿って、ダイエットを目的と推察される製品18検体及び強壯作用を目的と推察される製品18検体について、以下の成分の試験を実施した。結果は、ダイエットを目的とする製品のうち2検体からセンノシドが検出されたが、医薬品医療機器等法上問題のあるものはなかった。他の成分は全て不検出であった。

## 〈ダイエット成分〉

エフェドリン、ノルエフェドリン、シブトラミン、脱N-ジメチルシブトラミン、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、センノシド、オリスタット

## 〈強壯成分〉

シルデナフィル、バルデナフィル、タダラフィル、ヒドロキシホモシルデナフィル、アミノタダラフィル、クロロプレタダラフィル、ノルカルボデナフィル

## (5) 危険ドラッグ買上検査

危険ドラッグ買上検査事業実施要領に沿って、指定薬物の含有が疑われる商品の検査を行う予定であったが、検体の搬入はなかった。指定薬物リストの更新及び分析機器への登録、模擬試料の分析を行った。

表2 令和5年度医薬品等試験検査実施結果

項目	検体数	項目数	件数
(1) 県内流通医薬品等試験検査	44	1	44
(2) 医薬品・医療機器等一斉監視指導に係る試験検査			
ア 後発医薬品	6	1	6
イ 医療機器	2	1	2
(3) 家庭用品試買試験検査			
メタノール、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン	9	3	27
ホルムアルデヒド	132	1	132
アゾ化合物	9	24	216
(4) 無承認無許可医薬品試験検査			
ダイエット系	18	8	144
強壮系	18	7	126
(5) 危険ドラッグ買上検査	—	—	—
合計	238		697

## (6) 外部精度管理

厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課が実施する都道府県衛生検査所等における外部精度管理事業に参加し、ウルソデオキシコール酸錠の定量試験及び製剤均一性 質量偏差試験を実施した。

## 3 飲用水水質検査の概況

## (1) 水道水中の放射性物質モニタリング

令和5年3月27日付け茨城県政策企画部水政課長通知「令和5年度水道水放射性物質モニタリングの実施について」に基づき、水道水(原水含む)56検体の放射性物質(セシウム134及びセシウム137)の検査を実施した。結果は全て不検出であった。

実施状況は、表3のとおりである。

表3 令和5年度水道水放射性物質モニタリング(R5.4~R6.3)実施結果

採水地点	水源	検体数	項目数	件数
日立市 森山浄水場(水道水・原水)	久慈川	8	2	16
日立市 十王浄水場(水道水・原水)	十王川	8	2	16
北茨城市 中郷浄水場(水道水・原水)	大北川	8	2	16
水戸市 楮川浄水場(水道水)	那珂川	12	2	24
常陸太田市 瑞竜浄水場(水道水)	地下水	4	2	8

常陸太田市	水府北部浄水場（水道水）	山田川	4	2	8
鹿嶋市	鹿嶋市役所（水道水）	北浦	4	2	8
桜川市	岩瀬庁舎（水道水）	西浦	4	2	8
東海村	外宿浄水場（水道水）	久慈川	4	2	8
合 計			56		112

#### 4 調査研究

##### (1) 凍結粉碎法を用いた食品中の残留農薬分析における前処理法の検討

令和3年度より、食品中の残留農薬分析において、より精度の高い検査結果を得るため、試料の均一化の向上、前処理の工程における農薬の分解抑制や測定妨害物質（夾雑成分）の発生抑制効果を目的として、ドライアイスを用いた凍結粉碎法の有用性の研究を実施した。

従来の常温下における粉碎法と凍結粉碎法の比較を行うため、粉碎した検体の粒度分布測定や農薬の添加回収試験等を実施した。